

**製品名: インテグリン  $\alpha$ V ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab12674**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 $-20^{\circ}\text{C}$ で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	135kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ITGAV
別名	ITGAV; MSK8; VNRA; Integrin alpha-V; Vitronectin receptor subunit alpha; CD antigen CD51
遺伝子 ID	3685.0
SwissProt ID	P06756
免疫原	抗血清はヒトインテグリン $\alpha$ V 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 755-804

**背景**

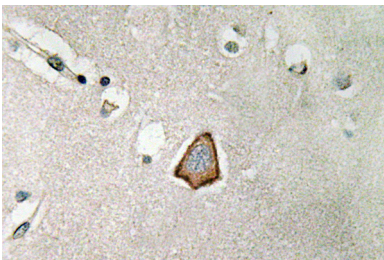
インテグリンサブユニット  $\alpha$ V(ITGAV) Homo sapiens この遺伝子産物はインテグリン  $\alpha$  鎖ファミリーに属します。インテグリンは  $\alpha$

サブユニットとβサブユニットからなるヘテロ二量体の膜貫通タンパク質で、細胞表面接着とシグナル伝達に機能します。コードされているプレプロタンパク質はタンパク質分解処理を受けて、αVサブユニットを構成する軽鎖と重鎖を生成します。このサブユニットはβ1、β3、β5、β6、β8サブユニットと会合します。αVとβ3サブユニットからなるヘテロ二量体は、ビトロネクチン受容体としても知られています。このインテグリンは、血管新生と癌の進行を制御している可能性があります。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。インテグリンα5サブユニットとインテグリンαVサブユニットは、異なる遺伝子によってコードされていることに留意してください。[RefSeq提供、2015年10月]機能: α-Vインテグリンは、ビトロネクチン、サイトタクチン、フィブロネクチン、フィブリノーゲン、ラミニン、マトリックスメタロプロテアーゼ-2、オステオポンチン、オステオモジュリン、プロトロンビン、トロンボスポンジン、およびvWFの受容体です。これらの受容体は、幅広いリガンドのR-G-D配列を認識します。HIV-1感染の場合、細胞外ウイルスTatタンパク質との相互作用により、カポジ肉腫病変における血管新生が促進されるようです。類似性: インテグリンα鎖ファミリーに属します。類似性: 7つのFG-GAPリピートを含みます。サブユニット: αサブユニットとβサブユニットのヘテロダイマーです。αサブユニットは、ジスルフィド結合によって連結された重鎖と軽鎖で構成されています。アルファVは、ベータ1、ベータ3、ベータ5、ベータ6、またはベータ8サブユニットのいずれかと会合します。HIV-1 Tatと相互作用します。アルファV/ベータ6は口蹄疫ウイルス(FMDV)のVP1タンパク質に結合し、このウイルスの受容体として機能します(類似性による)。アルファV/ベータ6はコクサッキーウイルスA9およびコクサッキーウイルスB1のカプシドタンパク質に結合し、これらのウイルスの受容体として機能します。

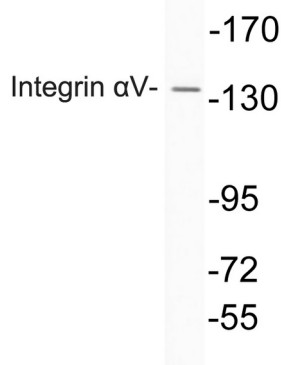
## 研究分野

接着斑、ECM-受容体相互作用、細胞接着分子(CAM)、アクチンと細胞骨格の調節、がんにおける経路、小細胞肺癌、肥大型心筋症(HCM)、不整脈性右室心筋症(ARVC)、拡張型心筋症

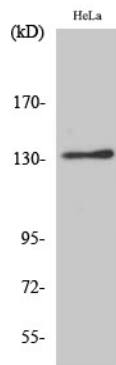
## 画像データ



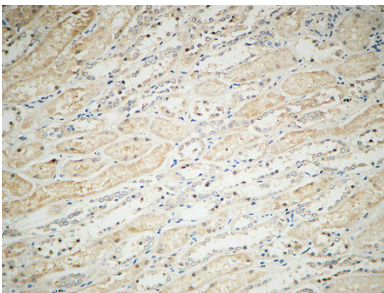
パラフィン包埋ヒト脳組織におけるインテグリンαV抗体の免疫組織化学分析。



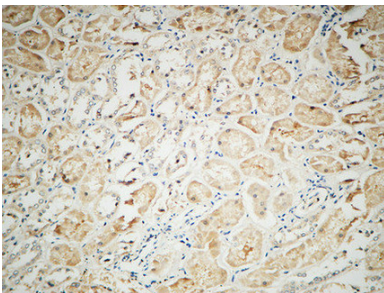
インテグリンαV抗体を使用したHeLa細胞溶解液のウエスタンブロット分析。



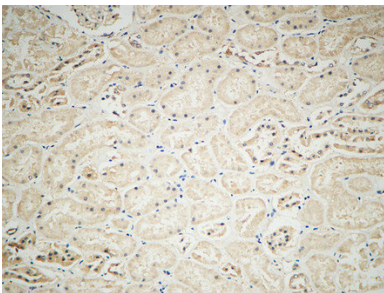
1: 1000 に希釈したインテグリン  $\alpha$ V ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。